

北海道胆振東部地震厚真町慰霊碑除幕式あいさつ

平成30年北海道胆振東部地震厚真町慰霊碑建立にあたりご挨拶申し上げます。

平成30年9月6日午前3時7分、マグニチュード6.7の北海道胆振東部地震が発生し、厚真町を中心とした胆振東部3町をはじめ、多くの地域で甚大な被害に見舞われました。

厚真町では、北海道観測史上初の震度7の地震により、明治以降最大規模の山腹崩壊や人里を襲う未曾有の土砂災害が発生し、住宅などの建物や社会基盤・生産基盤への被害が全町に広がりました。

この地震により、私たちの慣れ親しんだ故郷の風景は瞬く間に一変し、37名の尊い命が犠牲となりました。37名の方々がこの地で私たちと同じ時を生きてきた証を刻み、その御霊が永久に安らかならんことを祈り、郷土の未来を見守っていただくことを願い、慰霊碑を建立し、本日の追悼式に合わせて除幕する運びとなりました。

幾多の歳月が流れようと、ご家族を亡くされたご遺族の皆さまの、癒えることのない深い悲しみは察するに余りあり、お慰めの言葉は見つかりませんが、改めて衷心よりお悔やみを申し上げます。

建立した慰霊碑は、コンセプトとして外輪に3時7分を刻むことで地震が発生した時刻を示す時計を模しており、中心の黒い円盤は、山からの日の出・日の入りの太陽をイメージしております。また、素材の黒御影石は、反射によってお参りされた方の想いを投影されるものとなっております。慰霊碑は、厚真町と包括連携協定を結んでいます札幌市立大学デザイン研究科の皆さんのご協力によりデザインされています。ご協力をいただきました羽深名誉教授をはじめ学生の皆さんには、心から感謝申し上げます。

さらに、慰霊碑の建立を担っていただきました有限会社斎藤石材の斎藤範之社長様には、厚真町のそして犠牲となられた方々の想いを胸に作業にあたっていただき心から感謝申し上げます。

震災から3年が経過しようとしています。様々な困難を町民一丸となって乗り越え、明日を拓き、輝くあつまを次世代へつなぐため歩みを続けていくことをお約束申しあげて、慰霊碑建立にあたってのご挨拶といたします。

令和3年9月5日

厚真町長 宮坂尚市朗